

第9回企画展

3月30日まで

開催中

## 帝銀事件と登戸研究所

捜査手記から明らかになる旧日本陸軍の毒物研究

現在開催中の企画展「帝銀事件と登戸研究所」を本号では特集します。

### 帝銀事件とは？

今から70年前、1948（昭和23）年1月26日に帝国銀行椎名町支店（豊島区）で発生した、大量毒殺事件です。東京の衛生局員



事件を伝える当時の新聞（1948年1月27日付『朝日新聞』朝刊2面、朝日新聞社所蔵、聞蔵Ⅱより）

と名乗る男が、予防薬と称して銀行員ら16名に毒物を飲ませ、現金約16万円と小切手1枚を盗み逃走しました。この事件で12名が犠牲になりました。

犯人自ら毒物を飲み被害者を安心させる手口、服毒後、1分間は子供から大人まで全員異常なく生存していた点より、謀略活動をしていた旧日本軍関係者の関与が疑われ、元登戸研究所員も捜査対象となりました。また、犯行毒物は登戸研究所が独自に開発した暗殺用毒物「青酸二トリール」ではないかとも疑われました。

しかし、逮捕されたのは、警察が追っていた犯人像とは異なる日本画家・平沢貞通でした。

### 事件の真相は ～展示のみどころ

#### 『甲斐捜査手記』

帝銀事件の捜査をとりまとめていた、警視庁第一課係長・甲斐文助が日々の捜査報告内容を記録したものです。事件発生当



『甲斐捜査手記』の展示（帝銀事件再審弁護団所蔵）

日から257日間、全12巻におよびます。

今回の展示では、全3千ページにも及ぶこの手記を読み解き、登戸研究所や第731部隊などが戦前に青酸化合物を用いた人体実験を行っていたこと、そしてその実験結果から、犯行毒物が特殊な青酸化合物だと語っている点を明らかにします。

さらに、登戸研究所員や第731部隊員、有末精三や服部卓四郎の取調記録から、捜査にGHQの圧力がかった可能性を浮かびあがらせます。

この手記は、これまでジャーナリストや研究者によって一部内容が紹介されてきましたが、一般公開されるのは今回が初めてです。

#### 『帝銀毒殺犯人捜査必携』

1948年6月、犯人の早期逮捕を目指した捜査本部が、全国の警察官に配布した資料です。捜査本部が5か月間捜査してきた結果、みえてきた犯



『帝銀毒殺犯人捜査必携』

人像がまとめられています。その中には「旧軍関係は特に」と書かれており、警察は犯人が旧軍関係者の可能性が高いとみていたことがわかります。

#### 取調べ可視化劇『警視廳取調室第三七號』（22分）


帝銀事件再審をめざす会提供。供述調書を基に、平沢貞通が犯行否認から自白に転じるまでを再現した映像です。企画展開催期間、限定上映ですのでぜひご覧ください。（塚本記）



上映のようす

▶▶ 関連イベント情報は裏面4頁へ



資料館の非公式看板猫ふみふみちゃん（以下㊦）が、渡辺賢二先生（以下㊧）から、四半世紀以上にわたる調査の秘話を聞くコーナーです。

㊦「先生、帝銀事件の企画展がはじまったのね！お客さんからお話を聞きました。」

㊧「おお、ふみふみちゃんは情報通ですね。」

㊦「先生、帝銀事件で使われた毒物って、登戸研究所で開発されたものかもしれない、って疑われていたの？びっくりしたわ！」

㊧「そうなんです。事件の様子から、登戸研究所関係者も、この毒は一般的な青酸化合物ではなく、登戸研究所で開発された『青酸ニトリール』じゃないかと言っている人もいました。その発言も、ある時を境に一般に入手しやすい『工業用青酸カリ

である』とか『わからない』と変わってしまったんですが。」

㊦「えー？どうして？」

㊧「発言が変わったのはGHQの占領方針の転換で軍の元関係者と裏取引があったんじゃないかとか、逮捕された犯人は冤罪なんだとか…色々言われていますね。」

㊦「戦後の混沌とした様子がそのまま事件に反映されているのね。ああ、やっぱり、いっぱいお昼寝できる平和な世の中が一番だわ！」

（第三回 おわり）（椎名記）

## シリーズ Q&A

### 第十三回 「青酸ニトリール」とは？



帝銀事件に使われたのではないかと疑われた「青酸ニトリール」とはどのような毒物だったのでしょうか。

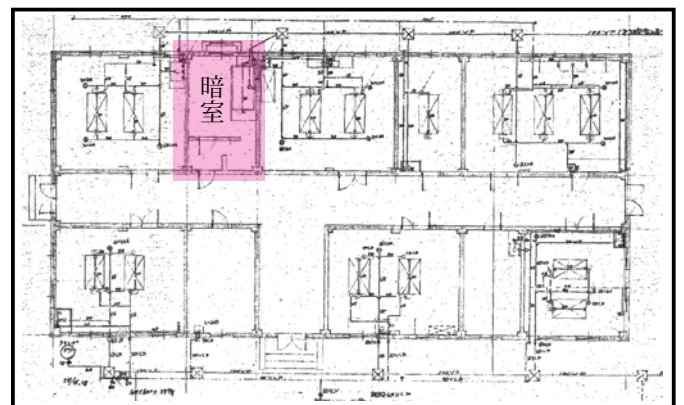
「青酸ニトリール」は、特務機関員が暗殺を遂行する際に用いる特別な毒物として、陸軍が登戸研究所に開発を命じたものです。通常の青酸化合物（青酸カリなど）は、服毒直後に反応があらわれてしまうため、暗殺には向きません。また、刺激が強く、臭いも青酸特有の苦いアーモンド臭がするため、相手に気が付かれずに飲ませることはまず不可能です。

そこで登戸研究所がめざしたのは、無味・無臭・無色透明、そして服毒後時間をおいてから反応があらわれる全く新しい毒物でした。その結果できあがったのが「青酸ニトリール」です。青酸特有の臭いも刺激もなく、液体のため飲物に混入しやすい毒物でした。服毒数分後に反応を示し始めるため、効果は青酸カリよりも比較的遅くあらわれました。

この反応を示す時間の差や飲物に混入しやすい性質により、帝銀事件で使われた毒物が青酸ニトリー

ルではないかと疑われたのです。

下に示す図面と写真は、青酸ニトリールを開発した研究棟「44号棟」です。現在の生田キャンパス第二校舎6号館の場所に建っていました。（塚本記）



44号棟内面図。資料館となっている36号棟と似た構造になっている。暗室も備えていたようだ。（明治大学所蔵）



44号棟外観（左）と内部（右）。（1989年、木下健蔵氏撮影）

# 資料館ニュース

## 来館者 7 万人達成！

2018 年 11 月 17 日（土）に、2010 年開館からの累計来館者数が 7 万人となりました。7 万人目の来館者となったのは、団体での見学で来館された東京都在住の津村智里様。7 万人目の来館記念として山田朗館長よりサイン入りの書籍を贈呈させていただきました。



7 万人来館記念品贈呈の様子

## 川崎市地域文化財に認定されました

2018 年 11 月末、生田キャンパス内に残る登戸研究所関係史跡が「旧陸軍登戸研究所の遺構群」として川崎市地域文化財に認定されました。

川崎市地域文化財とは、地域に根差した文化財を幅

広く顕彰・記録することで、その価値を伝えていくために今年から始まった制度です。この川崎市地域文化財顕彰制度に基づき、市民団体の登戸研究所保存の会が川崎市に推薦をして、認められたものです。

見学方法などはこれまでと変わりません。開館日時内にご見学可能です。毎月実施している見学会では主な史跡を解説付で見学することができます。（要申込、下記「資料館からのお知らせ」参照）

川崎市地域文化財「旧陸軍登戸研究所の遺構群」

- ・第二科研究室（資料館建物）
- ・旧弥心神社（生田神社）
- ・動物慰霊碑
- ・倉庫跡（2 棟）
- ・消火栓（2 基）
- ・旧登戸研究所本館一帯（車寄せ・ヒマラヤ杉）

# 資料館からのお知らせ

## 見学会（2018 年 12 月～2019 年 3 月）

毎月 1～2 回、資料館の常設展示と学内史跡を解説します。

見学内容：史跡見学・ビデオ鑑賞・常設展示解説

2018 年 12 月 8 日（土）13 時～ 渡辺賢二

12 月 22 日（土）13 時～ 山田朗

2019 年 1 月 12 日（土）13 時～ 山田朗

2 月 2 日（土）13 時～ 渡辺賢二

2 月 16 日（土）13 時～ 山田朗

3 月 2 日（土）13 時～ 山田朗

3 月 16 日（土）13 時～ 渡辺賢二

集合場所 生田キャンパス中央校舎 1 階ロビー

解説者 山田朗（館長・文学部教授）

渡辺賢二（登戸研究所調査の第一人者）

定員 各回 25 名（お申し込み順）

参加費 無料

参加方法 申込制です。資料館へお申し込みください。

解説者 山田朗（館長・文学部教授）

定員 各回 20 名（お申し込み順）

参加費 無料

参加方法 申込制です。資料館へお申し込みください。  
（前日 16 時まで）

## 見学会・企画展示解説会 申し込み

電話・FAX 044-934-7993

Eメール noborito@mics.meiji.ac.jp

\*メール申込は必ず本文中にメールアドレスを明記

希望日・名前・人数・電話番号をお知らせください。なお、自家用車での来館はご遠慮ください。お身体の不自由な方などで車利用希望の場合、または団体貸切バスをご利用の場合は、申込時に必ずお申し出ください。

10 名以上の団体でお申込みの場合はご相談ください。人数に関わらず、ご希望日時でガイド付見学を実施可能です（要事前予約）。

## 企画展展示解説会（各日同内容）

企画展の見どころを解説します。

2019 年 1 月 26 日（土）10:30～11:30 \*定員となりました

3 月 23 日（土）13:00～14:00

集合場所 登戸研究所資料館内受付

## 休館日のお知らせ

年末年始の休館 2018 年 12 月 23 日（日）

～2019 年 1 月 8 日（火）

入試のため休館 1 月 19 日（土）・2 月 7 日（木）

## 特別プログラム① 再審請求関係者による講演会

2018年12月1日(土) 13:00～  
2019年1月26日(土)

### ■第一回講演会

「帝銀事件の再審請求を求め続けた平沢貞通さん」

日時 2018年12月1日(土) 13:00～15:30

○酒田芳人氏(弁護士、帝銀事件再審弁護団)

「平沢貞通さんの自白をめぐる諸問題について」

○細川次郎氏(帝銀事件再審をめざす会)

「高校生の見た最晩年の平沢貞通老 一宮城刑務所での面会に通う」

○山本登志哉氏(供述心理学研究所・埼玉)

「帝銀事件再審請求の経過に関する心理学的検討について ディスコミュニケーション分析の視点から」

### ■第二回講演会

「帝銀事件第二十次再審請求の現状」

日時 2019年1月26日(土) 13:00～15:30

○浜田寿美男氏(奈良女子大学名誉教授・立命館大学客員教授)

「第二十次再審請求に提出された自白・目撃供述の心理学鑑定書」

○山際永三氏(映画監督、帝銀事件再審をめざす会代表)

「冤罪事件の原点としての帝銀事件」

○渡邊良平氏(弁護士、帝銀事件再審弁護団)

「帝銀事件の毒殺の手口と毒物の謎をめぐって」

## 特別プログラム② 映画「帝銀事件 死刑囚」上映会

2019年2月23日(土) 13:00～

熊井啓監督。日活。1964年公開。116分。

現場の現地調査と関係者への取材を積み重ねて制作されたセミドキュメンタリードラマ。帝国銀行椎名町支店の見取り図から忠実に事件現場を再現しています。生田キャンパスでも撮影が行われており、現存しない登戸研究所建築物を見ることができる点でも必見です。

上映後、渡辺賢二氏(登戸研究所調査の第一人者)と山田朗館長のトークショーを行います。元登戸研究所員たちの目からみた帝銀事件とは…。

日時 2019年2月23日(土)  
13:00～15:00頃



©日活

## 館長講演会「帝銀事件と登戸研究所」

2018年12月15日(土) 13:30～

館長 山田朗が日本軍事史研究者の観点から企画展の内容を深く掘り下げます。

講師 山田朗(館長・文学部教授)

日時 2018年12月15日(土) 13:30～15:00

### <上記イベント共通>

会場 明治大学生田キャンパス中央校舎6階 メディアホール \*開始時間30分前開場

参加方法 無料。予約・申込不要。直接会場にお越しください。定員280名

\*会期中、企画展展示解説会を実施します。詳細は3頁をご覧ください。(申込必要)

2018年11月30日現在の累計来館者数は70,360名です

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

発行日：2018年12月1日

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス

TEL/FAX：044-934-7993

E-mail：noborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html

 [https://twitter.com/meiji\\_noborito](https://twitter.com/meiji_noborito)

 <https://www.facebook.com/Noboritoshiryokan>

### «利用案内»

開館日：水曜日～土曜日(日・月・火 閉館)

開館時間：午前10時～午後4時

入館料：無料

●臨時に閉館する場合があります。最新情報は当館ウェブサイト・SNSなどでご確認ください。

●以下の場合には必ず事前に電話かメールでご予約をお願いします。

・10名以上の団体での見学(予約は1か月前まで)

\*団体で日曜日見学希望の場合は事前にお問合せください

・ガイドによる解説をご希望の場合

●ゼミ・クラス・クラブ単位での団体見学も承っております。

平和教育・歴史教育・科学教育の一助としてぜひご利用ください。